

三度目の正直～技能五輪への出場～

造園緑化コース

1. はじめに

これまで技能五輪全国大会に2回出場し、入賞を逃して悔しい思いをした。最後の学生生活で出場する機会に恵まれたため、もう一度挑戦しようと決めた。今大会では、悔しさを晴らすとともに入賞を目指すこととした。また、二人一組での大会のため、同級生の宮本と出場することになった。これまで身につけてきた技能・知識を活用し、今回得られたことを今後につなげることを目的とした。

2. 競技課題の練習

競技課題の発表が8月下旬にあるため、例年の傾向から石積み、小舗石、敷石の練習を行った。8月22日に課題が発表され、通し練習を6回と部分練習を行うこととした。

競技1日目は、アルコーブ、レンガ積み、敷石、乱張りをを行い、競技2日目は、アーチ、植栽、芝の植付け、草花植栽、整地・片付けを行う課題内容であった。

乱張りでは、外周部分、敷石回り、アルコーブ内を先に施工することとした。外周部分には薄い石を使わない、大中小の石をバランスよく配置して、リズムに変化をつける、四つ目地、八つ巻き、通り目地は避ける、表面が凸凹の石は使わない、石の上に乗らないようにして、必要な石を割りながら据えていくことを意識して行った。

9月22日に課題の変更があった(図-1)。敷石の枚数が減り、乱張りの範囲も変更となった。

石積み前とアルコーブ内の乱張りも変更となり、外周部分を行ってからアルコーブ内に向かって作業していくこととした。練習を積み重ねていくことで多くの課題が見つかった。ギザギザの目地をつくってしまうと小さい石や、同じ形の石がかたまってしまう。一辺が長く隣に小さい石をもってきてしまうと八つ巻きになってしまう。これらの対策として、五角形以上の石に加工すること、大きすぎる石と小さすぎる石を組み合わせないこととした。また、時間を短縮させるために、一枚の石にこだわりすぎないこと、次の石を据える石の形状を見据えて割っておくことを対策とした(写真-1)。

植栽では、植栽位置が決められた中での樹種の配置、樹木の向き、剪定を意識しながら行った。サツキツツジとのなじみを考えツバキは石積みの裏、ヒメシャラ、レイランディヒノキはそれぞれの場所で試し、植栽位置を決めた。

芝の植付けでは、張りつけ前がある程度地面を均しておく、芝の目地をきれいにする、凸凹をなくすことを意識した。はじめは、奥から手前に向かって張っていたが、手前側が幅の狭い芝に

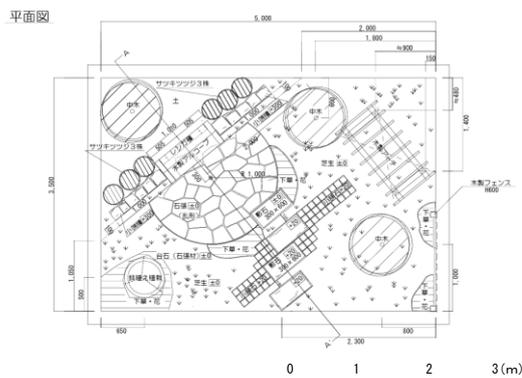


図-1 変更後図面



写真-1 乱張り(大会当日)

なってしまうため、手前から奥に向かって張っていくことにした。また、右側は木枠の向きに合わせた張り方、左側は敷石の向きに合わせた張り方で行っていたが、統一感を出すため右側も敷石に合わせた張り方で行った。

草花の植栽では、草花の配置、草花の向きに気を付けながら、鉢、乱張り周り、フェンス周りの見せ方を意識した。フェンス前や、鉢の中心には背の高い植物、乱張りの周りには背の低い植物、石に被らない植物を選定した。ボリュームのある場所をつくって、同じ植物を近くに使用しグルーピングした。

3. 大会当日と結果

競技1日目は、作業工程が多くスピードが大きな鍵を握る中、アルコーブ作業が今までにない速さで終わることができた。レンガ積みは、普段練習を行っていた土と違い、石が多く硬かったため少し時間がかかってしまった。敷石の据え付けでは、高さや位置を確認しながらスムーズに行えた。乱張り前までの作業が練習の時よりも早く行うことができたため、少し余裕をもって作業ができた。乱張りは、石の大きさのバランスや、目地も考えながら行い練習の時より上手くできた感じがした。時間に追われることもあったが、1日目を終わらせることができた。2日目は時間に余裕があるため、手直しをしつつ時間を気にしながら行っていくことにした。

競技2日目は、アーチ部分の穴を掘る作業から始め、石積みを手直ししてからアーチの組み立てに合流した。アーチの据え付けはスムーズにでき、時間を短縮することができた。植栽では、樹木にボリュームがあり植えるのに手間取った。ヒメシャラは幹が2本に分かれており、正面をどこにするか決めるのが難しかったが、宮本と話し合い進めることができた。芝の植付けは、小さい面積の担当だったため、ある程度土を均し芝を植付け、草花の植栽を行った。草花植栽では、事前に種類を確認していたため、前日に話し合い決めた位置に植栽した。最後に整地や片付けまでしっかりと行い仕上げることができた(写真-2)。



写真-2 競技終了後

技能五輪を終えて、最後まであきらめず完成させ取調賞をいただくことができた。3年連続出場して、技能面はもちろんだが、精神面などでも変わることができた。

練習で何回もやめたいと思うこともあったが、そこで逃げるのではなくそこからどう改善していくか追及し、やりきったことは今後、自分の自信になると思われた。初めての二人組では、一人の時とは違い心強さと担当する作業の責任感があった。練習するうえでたくさん話し合い、お互いに助け合うことができた。自分の作業が疎かになったり、時間をかけすぎてしまうと仕上がりに響いてしまうため、丁寧かつスピードが大切であった。大会を通して、最後までやりきる忍耐力、長期間の練習での計画力も身につけることができた。

たくさんの達成感や悔しさを味わい、あきらめず出場してきてよかったと感じた。ここで満足するのではなく、身につけた技能、知識、自信を強みに、見つかった課題を見つめなおして、今後に生かしていきたい。